



復刊第141号  
題字 吉岡 弥生

# 巻頭言

## 女性医師が日本の医療を変える

会長 佐藤千代子

新年お目出とうございます。

先生方にはご機嫌良くご家族の皆様方と一緒に、一年に一度の本当に休日の実感をもってお過ごしになられましたことと存じます。今は既に新しい目標に向けての大きな気概と変革への情熱にみちて予定表を埋めていらっしやいますこととごさいます。

さて、冒頭のテーマ「女性医師が日本の医療を変える」は、ジャミツク・ジャーナル1994年11月号に掲載されたレポートで、レポートは隅恵子氏。昨年末に平数常任理事から「この文章ご存知ですか」と渡され一読した時の私はそれこそ脳天を一撃された……という程の感動とショックを受けました。そしてこれこそ新年の巻頭言として神様が与えてくださったテーマとして、レポートと平数常任理事に感謝してご紹介

させていただきます。(本来なら全文を掲載させていただきたいのですが、紙面の都合で要約いたしますこととお許しください)

＜女性医師・女子医学生が増加中＞  
平成四年十二月末、厚生省調査によると、全医師数二二万九七〇四人中女性医師は二万六一五人、(11・9%)、女子医学生は三分の一から四分の一が平均的であるが、大学によつては五分の一のところもありまた学年によつてはほぼ半数が女子である医学部もある。今後さらに増加することが予測される。

女性医師の医療現場への受入れの現状。かつて女性医師に対して入局拒否の問題があったが、現在ではあからさまなものはないというのが女性医師側からの認識である。ただし、入局後男女平等に扱われているかについては疑問があるとしている。あ

る男性院長は「自分の大学には臨床系に女性の教授はいないが、女医の割合からいっても女性の教授が二割いてもおかしくないと思う」と。現状認識の発言であるが、現場での勤務女性医師からは「人事に関する扱いは差別感を持っている。重要なポストを最終的に決めるような時、男女両方の候補者があれば女性を選ばれにくい」のが現実であるという。

＜女性医師を戦力にできない医局の事情＞  
隅レポートは、現職の勤務女性医師たちから集められた情報を分析して「現在の日本社会では、妊娠・出産・育児は女性の仕事を続けるうえで依然として大きなハンディとなっている。それは医師であろうとOLであろうと変わらないが、私生活を犠牲にしなくても、医師を続けられる職場環境は実現してしかるべきであるし、でなければ優秀な人材を男女ともに医師として活躍したいと希望する業界とはいえないだろう」と論じている。

＜女性医師が医師—患者関係を変える＞  
現場で各女性医師のほとんどが患者から、女の先生だからこそとの信頼を感じている。隅レポートは「現在インフォームドコンセントという言葉が市民権を得て久しいが、日本では患者が医師と並列になったと感じているとは思えない。医師としての実力を備えた女性医師の生活や人権に対する感覚が日本の医師—患者

# もくじ

巻頭言……………佐藤千代子(1)  
◇年頭所感◇

奥山 春枝(2) 前田 慶子(2)  
金子ミサヲ(2) 三品 房子(2)  
兼谷 啓(3) 関根 みよ(3)

三橋 麗子(3) 加藤 光子(3)  
大畑 信子(3) 佐藤 良子(4)  
姉小路和子(4) 森 千恵子(4)

中嶋 幸子(4) 井上 柳子(4)  
関口 喜久(4) 斎藤 歌子(5)

安田 洋子(5) 清水五百子(5)  
森田 和子(6) 小林 梅子(6)

杉本 とし(6) 佐藤 秩子(6)  
内坂由美子(6) 神田 敬子(6)

小竹 充子(6) 弓場 光子(6)  
好地利栄子(7) 宗像 壽子(7)

松浦 俊子(7) 浜崎 浜子(7)  
武蔵野でチャリティコンサート……………山崎 倫子(3)

神奈川支部懇談会……………森田 和子(7)

羽根田道代先生の叙勲を祝す……………(7)

私の大学へ弘前大学医学部……………金田八重子(8)

大阪支部だより……………保坂 智子(8)

○第40回定時総会のご案内……………(5)

○第23回国際女医学会のご案内……………(9)

理事会議事録……………(8)

会員動静……………(10)

編集後記……………(10)

関係を変えていくための力を発揮するのにかどうか女性医師への期待は大いである」としている。

＜女性医師は患者ニーズが高い＞

患者のうち半分は女性であり、女性医師のニーズが高いのであれば、病院経営者は優秀な女性医師を各科に揃える必要性が経営努力として求められるようになる日も近いかも知れない。今、医療界で女性の感性を求められ始めているのではないかと、女性ドクターの増えることが医療界で女性の感性を生かすきっかけとなる可能性があるという確信を「と結んでいる。(以上レポート概要)

年\*頭\*所\*感

北海道支部  
奥山春枝

新年おめでとございます。昨年の総会で、高齢になっても現役として患者を診療なさっている荻野吟子賞受賞のすばらしさに感動いたしました。

北海道では現在八百人くらいの女医が活躍しておりますが、男性と同等の意識で働いておられますので、女医学会の存在価値を認めてくださらない方も多く、いかに魅力ある会にしようかと頭を悩ませております。

春秋の支部講演会・懇親会と、年

青森支部  
前田慶子

新しい年を迎え、今年も日本女医学会にとりまして美り豊かな年でありますように心から念じております。

世界に目を向ける機会が多い昨今、

秋田支部  
金子ミサヲ

新年おめでとございます。会員

インフォームドコンセントが求められていても、医師と患者が並列でない現状では、医師への信頼感が今後増進してゆくとは考えられません。日々患者や患児に接した時、訴え以外に隠されている症状や所見、あるいは背景にある精神的な悩みを敏感に察知し、患者側に立つて指導することが出来るのは、女医の母性にもとづく感性を内蔵した実力のしからしむるところではないでしょうか。

女医の実績が患者により期待されつつあり、その延長線上に「女性医師が日本の医療を変える」との見直しをレポートされた女性ジャーナリストの鋭い視点に敬服しました。とても

に患者からの評価は私どもが常に体験的に感じていたことであり、このことは医師個人の満足、生き甲斐としてとどめていたに過ぎません。このレポートを読んで私は、期待に添う活動を強く推進、顕在化の努力をしなかつたことを反省するとともに、これを契機として女医の力を結集し日本の医療により強く貢献してゆきたいと考えます。そしてこの活動を進めてゆくことこそ女医学会の存在価値を社会的にも立証できると信じます。

あえて付言するならば、日本で働く女性に男女雇用均等法があっても必ずしも有効に機能していません。

仕事と家庭・家族との両立も社会環境のバックアップシステムが未成熟であるため困難であるのが現状です。そしてまた、女性の問題であると認識しているにもかかわらず、高齢社会の問題、少子化の問題、これらに對し声を大きくして論じ、提言しているのは男性の経済学者や人口学者、評論家がほとんどであり、もつと女性側から積極的に発言してゆかなければならないと思えます。

新年にあたりまして今後の女医学会運営に向け、ぜひ支部長先生方のご意見、ご提言を賜わりたく存じまして、年末ご多忙の中、年頭所感をお願い申しあげました。この号に掲載

させていただけましたことを感謝し今後ご意向に沿った方向で努力したいと存じます。

今年も従来の事業計画にもとづき運営いたしますことは当然でございますが、柔軟に地方支部の活性化を願って充実拡大をはかってまいりたいと願っています。そして、焦眉の急をいたしまして会員の増強に努力いたしたいと理事会では必死の努力をいたしております。

新年早々のお願いでございますが先生方におかれましてはもとよりご支援賜りますようお願い申し上げます。

宮城支部  
三品房子

新年おめでとございます。

昨年は二月に日本女医学会公開講演会を開かせていただき、初めてのことでとまどうことも多かったのですが、種々と勉強させていただきました。会員の先生方も八分の満足とつと何かができると発奮と自信を持つ事ができたようでございます。今年には役員改選がありますが、この方

向は変わらず、会員の拡大とともに発展して行くものと思っております。

年頭にあたり、新体制の日本女医学会のご発展を心からお祈りいたしております。

福島支部  
兼谷啓

年を取ると、一年が早く過ぎるといいます。やらなければならぬこととやりたいことがたくさんあるため

武蔵野でチャリティコンサート!!

名誉会長 山崎倫子

12月1日、武蔵野文化会館において、日本女医学会、武蔵野女医学会主催で明治大学、マンドリン倶楽部チャリティコンサートを開催しました。

このコンサートは武蔵野市の高齢者および障害者の福祉にお役に立つことを願って開いたものです。

若い女医たちが準備万端から当日の受付、案内にいたるまで一致協力して懸命に働いてくれました。

切符は一、三五〇席完売で、後から欲しいといわれた方たちにおことわりしなければならず申し訳ないくらいでした。

コンサートには視力障害、その他の障害をお持ちの方々約一〇〇名をご招待致しました。ヘルプガイドさんに案内されて来られた方々、盲導

犬と一緒にの方々、老人病院からフルリクライニング車椅子で来てくださった方、皆さん前々から楽しみに薄化粧をして来てくださったのです。本当に嬉しかったです。

演奏は一部クラシック、二部日本の心を唱ったもの、美空ひばりメロデー、古賀メロデーの数々、三部カントオネ、スパニッシュフェスタからブラジルサンバ、エルクンバンチエロにいたるまで素晴らしいきびきびした演奏が続き、その間即興のプログラムも入り、聴衆はすっかり魅了され、力一杯拍手を打ったり、腕をふったり、ステージの上も下も一体になったようでした。過ぎし青春を思い起こし涙が溢れてきたと感想を洩らしてくださった方々も多くあり

さめやらぬ興奮と感激で、夕べはよかつたわねが朝の挨拶だったとか明治大学マンドリン倶楽部の学生さんたちのいかにも規律正しく言葉も態度もすっきりしていて、また情熱をこめて演奏して下さったその姿は実にすがすがしいものでした。ここに重ねてお礼を申し上げる次第です。はじめての一大イベントを盛会成功裡に終えた今、あなたか思いで胸がいっぱいです。まだ収支の清算が完了しておりますが、ご招待の他百万円以上を高齢者および障害者福祉に社会福祉協議会を通してご寄付できると考えております。

でしうか。

昨年は、佐藤和子先生をお迎えし「健康を支える栄養学」と、題して四回シリーズの講演会を行いました。非常に好評で食生活を見直すきっかけとなりました。会員の先生方では肥満、高血圧、神経性食欲不振症の治療に成果を修められました。また、講演会を通じて、地域との交流が深まり、関係機関の温かいご協力を得ました事も大きな喜びでした。本年も新しい企画のもとに活動の輪を広げて行きたいと願っています。

日本女医学会のさらなる発展を期待し会員の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

埼玉支部  
関根みよ

あけましておめでと存じます。一九九五年は、埼玉支部にとりましては、日本女医学会総会開催にあたり、会場その他の担当の年であり五月まではその諸準備が緊張し、終了

千葉支部  
三橋麗子

謹賀新年。第七回ワークショップ「飛び立とう世界へ」に出席して感激し、一月早々行われる「女医の未来像」に非常に期待しております。女医は仕事以外に雑用に追われる毎日ですが、いつもああ出席してよかつたと思う企画ばかりで感謝しております。

私自身卒業大学は共学であり幸いあまり差別を感じないで過ごしてきました。どうして女医のみ集めるのかと考えた一人でしたが、稲葉先生のお誘いで、大阪と筑波の万博の診療所のお手伝いをして女医会の先生に接して共感し入会しております。

若い先生、未会員の先生をお誘い

板橋支部  
大畑信子

明けましておめでとございます。年が改まりまして、諸先生方には何かと新年のご抱負などお考えなされておいでのことと存じます。

光陰矢のごとしと申しますが、年を重ねるごとに月日の立つのがなんと早く感じられることとございま

荒川支部  
加藤光子

古稀を迎える新年を美しく老いにいとむジャンプ台としたい。

拙い言葉ですが、今年一九九五年八月に満七十歳を迎えます。

やつと長男も私の片腕として診療の一部を担当出来るようになりましたので、私も忙中閑を求めて何か一つ趣味に生きる事に努力したいと思っております。美しく老いるためのジャンプ台として、前向の姿勢でスタートしたいと考えました。

日本女医学会のますますの発展を祈ります。



よう。  
顧みますと、東京都支部連合会は三神美和先生のご提案により、昭和58年4月、結成の準備会が開かれ、何回か討議を重ねまして翌59年に設立されました。そして、第十回定期総会までの十年間、会長の今野信子先生のもと、和やかな楽しい会が続きました。昨年11月から斎藤歌子先生が会長を引き継いでくださり、東京都支部連合会は日本女医学会とともに今後とも脈々と続くこととごさいます。

東京都支部連合会は今年で11年目を迎えたこととなりますが、この間に私にとりましては立派な女医さん方に接する機会を得まして日々の生活の励ましになりました。本当によかったと感謝致しております。また日本女医学会・東京都支部連合会の開催して下さいます学術講演会は大変勉強になります。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

日本女医学会に対する私の悩みは、板橋区の会員が少ないこととごさいます。折角新しく入会していただいても、いままでも入会して下さっている先生が、三年間の会費未納で自然退会になってしまわれまので本当に残念でございませう。何とかよい方法はないものかと思案いたしておるところでございます。

医療界にもじわじわとその影響が波及し、変革を迫られております。私どもの病院も時代の流れに沿って付添い看護を廃止し、介護力強化病院へ移行するなど懸命に努力をしております。今後は一層患者さんへのインフォームド・コンセントに努め、また患者さんのQOLの向上に心を配り、親身になって診療を行ってまいりたいと思っております。

今年3月には、上板橋病院に隣接した施設にMRIと超音波診断装置(カラー)等最新の医療機械が設置される予定になっておりますので、診断の向上に役立つものと期待いたしております。

大田支部  
佐藤 良子

えを受けながら何か一つでも、お役に立てたら幸いです。  
近い将来にせまっている「医師過剰時代」という局面に対しても、医療にも、のいえる「日本女医学会」であって欲しいと念願する次第です。同時に、医療に関しての他にも難しい問題が多々ある中で、私たちに何が出来るのか、ゆっくり考えて行きたいと思っております。

杉並支部  
森 千恵子

生方の女医としての誇りと学識と責任を見習い、ご活躍のお役に立てればと念願しております。  
なにとぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

千代田支部  
井上 柳子

の内視鏡医療にとりくんでいられる情熱に感動し、このような若い先生方がたくさん入会して下さると日本女医学会も、より発展すると思ひます。支部長の責任の重大さに気がつきました。本部の情報早く会員に知らせるかけ橋として、年四回発行されている会誌の他に、情報連絡網を作り、会長から連合会の会長へ、役員会で支部長へ、支部会へ、役員会でお友達へとひろがって大きな輪を作る事が大切だと思います。

練馬支部  
関口 喜久

医会々員が少なく、若い女医さん方に入会をお奨めしなければと痛感しております。今年の名簿も新しくして練馬区女医全体を対象に支部会を開く予定でございます。幸い副支部長は同級生の足立茂代子先生ですので大変心強く思っているところでございませう。

港支部  
斎藤 歌子

明けておめでとうございませう。本年も東京都支部連合会をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。  
昨年11月、支部連合会の三本柱、今野信子会長、三神美和先生、小俣喜久子先生のお三方がご引退になり、私たちが斎藤歌子、守谷孝子、中山年子の三人があとをお引きつぎすることになりました。よろしくお願ひ申し上げます。

にとぞよろしくご指導のほどお願ひ申し上げます。お願ひとともに一言ご挨拶させていただきます。

目黒支部  
安田 洋子

日頃、自分の生活に追われ東京都支部連合会の活動には積極的に関心力もないままに、ずるずると庶務の末席におります。若い先生に入会を勧める良い知恵も浮かばないのは、説得材料を私自身が持っていない力不足の故なのかと反省しております。でも最近解ったことが一つあるので、先輩先生方の「生き様」を見せたいだけのことです。女医としての生活のさまざまな姿を拝見し、生きるエネルギーを若い人からではなく先輩から与えてもらおうという不思議な現象のあることです。今年はこの光のような現象を、一人でも多くの友人に話してみたいと思ひます。

都下東支部  
清水 五百子

東京都下支部はかなり広い地域である(東西)二支部となっておりますが、ためでしょうか、会員の心を一つにまとめることはむずかしくて、力のなさをつくづく感じております。「呼べど答えず」で、いつの会合に

第40回 定時総会のご案内

開催日 平成七年五月二十七日(土曜日)  
会場 (一) 大宮ソニックシティ  
埼玉県大宮市桜木町一七五  
TEL 〇四八―六四七―四一一  
FAX 〇四八―六四七―四一五九

(二) パレスホテル大宮(住所は右に同じ)  
財団法人 産業文化センター  
TEL 〇四八―六四七―三三〇〇  
FAX 〇四八―六四八―七〇七〇

日程  
●五月二十七日(土曜日)行事  
(一) 受付 九時三十分～十二時 ソニックシティホール2F小ホール  
評議員会 十時三十分～十二時 ソニックシティビル6F602号  
昼食 十二時～十二時四十分  
総会 十三時～十五時  
休憩 十五時～十五時二十分 ソニックシティホール2F小ホール  
記念講演 十五時二十分～十七時  
演題 間質性肺炎の臨床  
講師 済生会栗橋病院院長 滝沢敬夫先生  
(二) 懇親会 会場 パレスホテル大宮(十八時～二十時)  
アトラクション 一、ハーブ、フルート 田口裕子・光山香世子  
二、マリンバ、ピアノ 吉沢恵理・宮本聡子  
三、ソプラノ(カンツォーネ)、ピアノ 李奉姫・呉惠珠

●五月二十八日(日曜日) 観光Aコース(一泊) 復路直帰コース  
長瀬秩父ライン下り(川越小江戸散策、小川町埼玉伝統工芸館にて手すき和紙製作過程見学) 宿泊II長生館(Tel 〇四九四―六六一―一一三)  
埼玉県支部主催歓迎会 郷土芸術 祭囃子  
●五月二十九日(月曜日) 観光Bコース(日がえり) 復路巡礼コース  
金子千侍先生 社中



も集まりが悪く、本部へのご協力も至難です。毎年頭から離れませんが、何とか諸姉の心をひきつけた、活力のある支部にしたいということ。この実行は会員の方々、特に若い方々のご協力以外にはないと思ひますので、支部の集まりにはぜひご出席下さってご意見を伺わせて下さい。年頭のご挨拶にかえてお願いをかきました。

神奈川支部 森田和子

謹んで新春のお慶び申し上げます。さまざまな出来事が昨年もありましたが、いじめにより若い尊い生命に自ら断つた少年のニュースなど印象に残っております。今さらながら次の世代へ何を伝えるべきか考えなければなりません。

劇画世代へ向けて作成した「Dr.Iのメッセージ」も一人でも多くの方に読んでいただきたいと改めて感じました。昨年、国際エイズ会議と同時に開催された、文化フォーラムで「Dr.I……」を紹介させていただきました。思いがけず数人の方からお便りいただき励みとなりました。

一人の力は小さいけれどそれが集まれば何かを動かすこともできるでしょう。そのためにも女医の輪が広がればと、今年は一人数でも多くの会員増加を目指し、若い先生方からの刺激を受けて発展してゆきたいと念じております。

山梨支部 小林梅子

会長はじめ本部理事の方には日本女医学会のより良い運営のために、業務にお忙しい中を常に頭の回転と心配りにご尽力頂き感謝しております。山梨は小さい県故、非力であり大きな事業など無理なので、会員相互の交流親睦を目的に県独自の無尽会の形で毎月当番制の例会をもち、常に連絡を取り合い親睦を続けておりますが、年一回の総会の折には講師のお話、本部会費や同窓会費なども会計が一度にまとめるため本部へ振り込むので、納入率はいつも良くこれからです。幸い東京も近いのでその気になれば総会、講演会、シンポジウムなども出席可能故、支部で大きな会をもつことは考えておりません。

静岡支部 杉本とし

一九九五年は戦後五十年です。あのころをふりかえり、いろいろな意味での感慨と懐かしさがよみがえる新年です。よくぞここまで来たと思つて反面では困難な時代になつてとも思ひます。戦い敗れて山河ありといわれましたが、その山河にもいろいろ

問題があるようです。さて会員増について、私も、静岡支部でも心にかかっております。若い方々が女医に魅力を感じて下さるにはどんな対応の仕方がよいかしら、ですが具体的ににはむずかしいようです。女医が世に出たころ、そして現在はいずれの医大へも入学できること、等々世の中の変わりましたこともあるかしらと感じたりいたします。

愛知支部 佐藤秩子

平成6年5月支部長に推され、研究室の世界しか知らなかった身でいざさか戸惑つたスタートでした。佐藤千代子先生の日本女医学会会長就任、さらに支部産みの親の森川みどり先生とのお別れ、と支部としての大きな出来事が続きましたが、支部幹事の方々が積極的に新米支部長を支えてくださり、愛知支部はささやかながらまとまって活動できる事を嬉しく実感いたしました。平成7年からの活動については、少しずつ

長野支部 内坂由美子

山々も白く模様替えし、また新しい一年がやってきました。女医学会の方々の成長のための活動とともに、女医学会のメンバーが社会において果たしている役割について、考えていく一年としたいと思います。

現在、私が代表をしていますが、北信外国人医療ネットワークにおいても、医療者の役割は大きいものがあります。皆さまのお支えをぜひお願いします。

新潟支部 神田敬子

ねぎらいのお言葉をいただき、会長先生のご苦勞に思いを馳せると、恐縮に存じます。前支部長遠藤ハナ先生から引継ぎ、来年は四年目に入ります。会員数は僅か十八名ですが、お互いに連絡をとり合つて微力ながらも、うまくやっていきたいと考えています。

つこれまで心にかかっていることも手をつけようと計画をたてているところ。若い人々の入会の少な点についても根本的な問題を考えるべきかと存じております。

大阪第6支部 小竹充子

平成もはや七年となりました。「月日のたつのは早いもの」との感を今更の如く感じさせられます。役員諸先生、「お役目ご苦労様」に存じ上げます。年頭に当りまして改めて深くお礼申し上げます。

さて、過日、中学生が「いじめ」を苦に自殺いたしました。何ともやりきれぬ思いがいたします。われわれも病人だけの医者でなく、できれば心身共の医者として、だれにでも「気安く」力添えとされる方便は無きものか、と改めて考えさせられます。

大阪第7支部 弓場光子

本年こそは良き年でありませう、会員諸姉のご健康とご多幸の程、お祈り申し上げます。

新年に因んで万葉集最後の歌、大伴家持の一首を引用いたします。新しき年の始の初春の今日 ふる雪のいや重け吉事 新年のよいことが、つもれつれとよい言葉をいうことで、よいことが実現するように、世界平和を念願

いたします。次に今年も干支(十二支)の最後に位する亥(猪)年で、北から西へ三〇度の方向で、時刻は今の午後10時ごろです。「猪突猛進」の故事がマスコミでとりあげられるでしょうが、やみくもに突つ走るのも考えものです。猪の縁起物として某神社では、猪のたてがみの毛一本を入れて「金運御守」として参拝者におかけしているそうです。

京都支部 好地利栄子

女医会には卒業と同時に入会していただきましたが、女医会という会を意識したことはありませんでした。

この二年ほどの間に諸先輩方が一生懸命に会を発展させ育むお姿に幾度か接する機会を得て、より意識して見つめるようになりました。



羽根田道代先生の叙勲を祝す

「花開いた地道な功績」と評されて神奈川支部の羽根田道代先生(八十一歳、逗子市在住)が、秋の叙勲にて勲五等瑞宝章を受賞された。先生は昭和十三年東邦大学医学部を卒業され、昭和二十三年逗子市に眼科・内科・小児科を開業された。併せて保育園、小・中・高校数校の

これからは、ほんの少し「お手伝い」ができるようになるかも知れません。地域の会員の皆さまの協力あって初めてできることなので努力したいと思っております。十二年に一回、巡つて来る亥年、猪突はさておき、良い意味での「猛進」ができる情熱を持ち続けたいと願う年頭です。

広島支部 宗像壽子

猛暑の後の厳しき冬。季節はリズムを崩したようであらざるに訪れて来ます。パプルのほじけた底冷えの景気の中で戦中、戦後を夢中で走り抜けた私にもは週休二日制にとまどいを感じます。広島では昭和63年9月第12回血液事業学会。平成4年7月第28回全国献血推進大会に皇太子殿下の行啓に際して、ご先導、ご

進講、お食事を一緒にの後のご下問に遺伝子治療の奏上、大会ご臨席と行事を終え平成6年11月第39回日本輸血学会中・四国地方会開催と日ごろ献血検査ご協力の会員の皆様方のお蔭で無事終了。第13回アジア大会ドローピング検査の協力。レディース・テレホンサービス続行中。休みは多忙になりそうです。

香川支部 松浦俊子

世界一の高齢社会を迎え、平成7年の医療界はますますむずかしい年の幕明けとなると思われまます。増える心よりお慶び申し上げます。

高知支部 浜崎浜子

全国の日本女医学会員の皆様、お健康やかに新しい年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

神奈川支部懇親会

神奈川支部 森田和子

かねてより高年齢の先輩諸先生方から、懇親会に出席したくても独りで出掛ける自信はないし、家族にも心配かけるのでまなならないといつたお便りやお電話を伺つておりましたので、今回は久々に湘南方面に会場を設定し、学術講演もない気楽な集まりを企画いたしました。小田原駅から登山電車で二つ目の風祭駅にて下車、蒲鉾店すずひろの「楽趣里」にて正午集合。会席料理に一同舌鼓

を打ちながら自己紹介かたがたお喋りを楽しみました。出席者十五名のうち地元小田原在住者が八名、八十を越された大先輩の先生方は五名ほどで、三十余年前のご卒業当時の様子などを伺うことができ、若い先生にとつては貴重な機会になったと思ひます。さらに、秋の叙勲で勲五等瑞宝章を受賞された羽根田道代先生に出席していただき、お祝いの杯をあげました。小春

ちなみには昭和三年卒、下は昭和三十四年卒までの幅広い年代にわたつての参加者でしたが、大正十五年卒の先生が楽しみにしていらしたのに、当日風邪のため欠席となり残念でした。これからの交流を深めて参りたいと思ひます。



# 私の大学【弘前大学医学部】

青森支部 金田 八重子

弘前大学医学部は、太平洋戦争の末期昭和19年5月、青森市に青森医専として誕生、昭和20年7月、青森大空襲で校舎が全焼したため、弘前の国民学校に移転再出発しました。昭和24年学制改革によって弘前大学医学部となり、弘前大学と軽んじられながらも、また新しい設備ながらも、志は高く、教授・研究生・学生は一致団結して地域医療の向上を目指して研究に励んだようです。

それは、昭和36年卒の私たちにもひたひたと感じられ、学生時代医者の卵として聴診器と血圧計を持って無医村地区を飛び廻ったものです。あの時代のほんの一例を挙げますと、

○昭和26年第二病理の白淵勇教授による弘前肉腫の発見。  
○生体横断撮影でCTスキャン開発に影響を与えたといわれる放射線高橋信次教授(昭21〜昭29)の回転撮影法と拡大撮影法、多色撮影法の研究は世界的にも有名になりました。  
○小児科荒川教授による地域に密着した研究「V.B.欠乏によるシビガ

ツチャキ症」等々。私たち同窓生にとっても大きな誇りであり励みであります。

これは五十年たった現在でも脈々と受け継がれ、外科の生体部分肝移植、産婦人科生体外受精、顕微鏡受精等活発に行われ、平成6年3月には男子五つ子ちゃん出産と明るい話題に沸きました。卵巣がんや大腸がんの集団検診は昭和50年ごろから全国に先駆けて始め普及に努めました。昭和33年全国医学生サマーキャンプに出席した時、

「ひろまえ大学ってどこにあるの？ 広島？」  
といわれた時はショックでした。戦後の復興期、観光はまだ一部の人のせいにくという時代でしたが、みちのくの果てに四百年の歴史を刻んだ、桜の古城の街、弘前は津軽富士と呼ばれる岩木山のぞみ、とこのころに明治の西欧建築や古い神社仏閣の残る城下町で、時間の止ったような、ひっそりと落ち着いた学園都市でした。当時は女子学生が少なく、クラスに二、三人、一割も居ると多いなあ〜と驚かれましたが、

## 支部だより

### 大阪支部だより

大阪第7支部 保坂 智子

現在は二割近くになり、平成6年6月、創立五十周年記念式典に出席した折、女医さんってこんなに多かったかしらと驚きました。

昭和34年に始まった大学の新築は昭和46年完成され、まぶしいほど広く明るい最新の建物に、最新鋭の設備と生れ変わり、名実とも近代化されました。同時に古いなつかしい建物はすっかり取り払われ、昔の面影が全くなくなりました。

創立時代から苦楽を共にした同窓生の結束も堅く、クラス会、同窓会誌等で全国に活躍する同志の交流も盛んです。華々しさ、スマートさは余りないかもしれませんが、東北人特有の地味なねばり感が、ばってまます充実、発展しています。

物はずっかり取り払われ、昔の面影が全くなくなりました。

創立時代から苦楽を共にした同窓生の結束も堅く、クラス会、同窓会誌等で全国に活躍する同志の交流も盛んです。華々しさ、スマートさは余りないかもしれませんが、東北人特有の地味なねばり感が、ばってまます充実、発展しています。

今年は関西復権の年といわれています。関西人の思いだけでしょうか。昨年世界最大の目玉を集めて関西国際空港が開港いたしました。京都では遷都千二百年記念の数々のイベントがこの一年、古都を舞台に華やかにくりひろげられ、まさに万華、万葉の都の日々でした。また私の住む枚方の街も参加して三府県(京都府、大阪府、奈良県)に跨る関西学術研究都市がセカンド・ステージ・プランの段階に入っています。今しばらく大阪(関西人)の声を大きくください。

関西国際空港は昨年9月4日、世界ではじめての規模といわれる本格的な海上空港として開港しました。約五〇ヘクタールに及ぶ人工島に機上の人として着陸する時の気分は二十一世紀を控えて壮大な人智の限りのプロジェクトを眼のあたりに見ている思いです。二十四時間開港可能、国際線、国内線乗り入れ可能な併用空港となっています。人の流れ、物の流れ、情報の関西よりの発信基地、世界に向けて新しい文化交流の国際基地として関西ルネッサンスの幕明けともいわれています。

また一方関西学術研究都市のプロジェクトは三府県、五市、三町(枚方市、交野市、四條畷市、奈良市、

## 理事会議事録

日時 平成6年9月17日(土)  
午後3時30分  
場所 京王プラザホテル

出席者 佐藤、白浜、中濱、野澤、青井、石原、稲生、栗原、佐々木、野本、橋川、平敷、松井、丸茂、大澤、大坪、加藤、川田、佐伯、鹿田、清水、田中、久田、松本、宮原、村田、吉崎、南雲、野呂、藤岡  
(以上30名)

欠席者 佐野、橋本、西嶋、山本  
(以上4名)

本日の議事録署名人名として村田理事を指定。

議事録事項

- 一、庶務報告 橋川常任理事  
以下、別紙どおり報告 承認
- 二、会計報告 栗原常任理事  
平成6年7月分、8月分収支別紙どおり報告 承認
- 三、各部報告
- 【渉外部】 野本常任理事  
・種々の女性団体より女医会に対し参加の申し出があるがどの様に対処すればよいか」との野本常任理事の質問に対し「環境問題、健康問題等医学に関係する会であれば理事会に諮り検討すればよい」との結論となった。
- 【広報部】 稲生常任理事  
・第一三九号会誌は9月1日に発送。  
・第一四〇号会誌の割付会話は来週中に開催予定。  
・「支部だより」への投稿をいつても歓迎。  
【事業部】 丸茂常任理事  
・「エイズに関する小冊子」について  
(1)増刷分一万部は7月末に完成。  
(2)現在、約七千六百部の残りがあるので諸先生の関係する諸団体(特に中学生対象)で購入してもらえらるよう協力してほしいとの要請。  
・年金について  
女医会にとって有益な収入源なので積極的に働きかけ加入者増加を図るが、まず、事業部としてその方法を検討。
- ・安田信託銀行より「ガン保険」と「介護年金」を女医会年金と提携して勧誘したい旨申し入れがあったが検討中。
- ・「いきいき」への執筆依頼。
- ・「公開講演講座」次回開催については検討中。
- 【学術部】  
・7月23日のワークショップは参加者約百名(内学生二十名)、成功裡に終了。  
・次のワークショップ(またはシンポジウム)について現在検討中。  
・国際女医学会のヤングフォーラム参加者への補助金は合計二〇万円、参加者の人数により補助の方法および額を決定。  
【その他】  
・佐藤会長より  
・8月9日の森川先生の合同葬の報告。  
・12月6日の明治大学マインドリンクラフ、チャリティーコンサートは日本女医会協賛であるので協力を依頼。  
・石原常任理事より  
・現在までの名簿広告依頼状況について報告。広告を増やすために協力を依頼。  
・四、ハーグ国際会議について学術部の各部報告で検討したので省略。  
・五、エイズ小冊子改訂版頒布の方法について  
・理事全員にある程度強制的に買い取ってもらう。

## 理事会議事録

日時 平成6年11月26日(土)  
午後3時30分  
場所 京王プラザホテル

出席者 佐藤、白浜、中濱、野澤、青井、石原、稲生、栗原、野本、橋川、平敷、丸茂、大坪、加藤、川田、佐伯、鹿田、清水、田中、久田、西嶋、松本、宮原、村田、吉崎、野呂、藤岡 (以上28名)

欠席者 佐々木、佐野、松井、大澤、山本、南雲 (以上6名)

一、10月常任理事会の議事録を承認。  
二、本日の議事録署名人名として久田理事を指定。

議事録事項

- 一、庶務報告 村田理事
- 二、会計報告 川田理事

## 第23回国際女医会議のご案内

期日 一九九五年5月7日(日)〜12日(金)  
開催地 ハーグ(オランダ)

参加ご希望の方は、日本女医会事務局へ  
いそいで申し込んでください。

社団法人 日本女医会  
電話 〇三三四九八一〇五七一

平成6年10月分収支別紙どおり報告、承認される。

三、各部報告

【事業部】 丸茂常任理事  
・「Dr.1のメッセージ」について  
10月末現在残り三、五八〇部、入金状況二、二七二、五〇〇円。  
・「公開講演会「エイズ」」について  
2月18日(土)高崎で行う。講師には神奈川支部の吉永陽子先生に依頼。  
【広報部】 大坪理事  
・第一四〇号会誌は11月1日に発送。  
・第一四一号会誌企画。  
・叙勲者の会誌記載について  
「叙勲者全員を記載しなければ不公平にならないか」と意見があったが、叙勲者全てを網羅するのは不可能なので、現状維持のまま知らせのあった人のみ記載することに決定。

【渉外部】 野本常任理事  
・「女性NGOフォーラム」について

来年の北京会議に女医会も積極的に参加するよう言われ、準備会に出席した。北京における事務局長から現段階での会議の準備状況についての話しがあった。

・「仕事と家庭を考えるシンポジウム」  
家庭内において男性が余り働いていない事についての話し合いが余り進展がない。

・「国際婦人年連絡会、全体会」  
来年の北京会議にむかひどのようにならぬかを議題とするか、話し合っている。①核廃棄物の処理法にどのよう中国が関与するか。②国境を越えた環境汚染に中国人女性として何をすべきか、等共通のテーマで話しあえるよう申し合わせをしている。

・各団体で北京会議にアピールする標語を考へるとの要請があったが、女医会として公募するには遅すぎ

ないかとの意見があった。女医学会としてどういう形で、どういう活動ができるのか渉外部でもう少し検討する。

【会長報告】

・日中医学交流センターの事務局長朴純子先生と会い、中国女医学会新設に協力すると約束した。

・台湾女医学会より創立40周年記念式典に招待があったので山崎名誉会長に出席していただく事になった。交通費、ご祝儀は国際交流基金から出す。

・東京シテイククラブの会員権を山崎名誉会長が寄付して下さった。

議題

一、ハーグ国際会議について  
現在までの申込状況を報告。会議のみ3名、JTB1名、阪急8名、日通9名。

二、定時総会について  
11月17日下見の会があり村田理事が参加した。

・日程は会誌一四〇号掲載。アトラクションの詳細は次号会誌に掲載予定。

三、吉岡弥生賞、荻野吟子賞について  
現在、荻野吟子賞候補推薦者3名、四、会員増加の方法について  
二カ月にわたり全理事より提言をし検討した。今後、これについて実行可能な事項から推進する予定。

五、平成7年度1月理事会について  
新年会、ワークショップをかねて1月28日(土)京王プラザに於いて開

催。

理事会は2時より開始。

六、第8回ワークショップの件  
・講師として6名を予定。

・各講師10分位のお話で残りの時間は学生との討論を主体とする。

・各大学、近郊病院にポスターを送付する予定。

七、公開講演会について  
事業部報告通り。

八、慶弔規定案  
別紙通り承認される。

九、National Coordinator からの報告(別紙参照)

・今までMWIAに五題の演題が提出されている。

・日本女医学会代表として野澤先生に「高齢女医(日本女医学会会員)の医療活動および社会活動の現状」を発表していただいてはとの提案があり、全員賛成で承認される。

・ヤングフォーラム参加希望者には助成金を等分わりをして、できるだけ多くの人に参加してもらいたい。

十、その他  
白浜副会長より

・教育医事新聞からの広告依頼について  
前回の常任理事会では否認されたが、エイズ小冊子の注文増加のメリットもあり、女医学会の宣伝にもなるので再検討してはどうかとの提案があり、承認される。

・安田信託銀行から依頼があった「ガン保険」について

パンフレットを次号会誌と一緒に会員に送付したいとの提案があり、承認される。

青井常任理事より

・職員賞与について  
以上  
副会長(庶務部担当) 白浜  
石原、橋川、鹿田、久田、村田

会員動静

新卒入会(敬称略)

埼玉支部 高橋由美子

栃木支部 佐藤有子、寺西 恵  
東女学内支部 樋代伸子  
龍田万里子

都下東支部 中澤恭子  
愛知支部 柴山久代  
大阪第8支部 谷平由布子  
大阪第9支部 松村暢子、  
人見佳枝

兵庫支部 大上和恵  
広島支部 小田佳恵

入会会員(敬称略)

山形支部 門脇シズエ  
群馬支部 志島真理子、東郷直子  
埼玉支部 栗原八千代、坂本史子  
坪井るみ子、牧田輝子  
藤井美紀子、岩崎泰子

栃木支部 飯村昭子  
茨城支部 加藤真砂子  
千葉支部 安藤道子、野田宏子  
新宿支部 竹下由紀子、宮地百子  
世田谷支部 多田多恵

都下東支部 刀祢真理  
山梨支部 土屋和子  
愛知支部 石川尚代  
新潟支部 中平啓子  
石川支部 岡田由恵  
大阪第6支部 井上陽子  
愛媛支部 大野淳子  
福岡支部 嬉野美保、船越泰子  
佐賀支部 貞包典子、藤崎桂子  
退会者 一二名  
物故者(敬称略)  
山形支部 岡田政枝

茨城支部 鬼沢幸世  
荒川支部 月尾輝子  
静岡支部 村田ミキ子、橋本佳子  
大阪第4支部 住谷孝子  
大阪第9支部 綾仁伸子  
香川支部 今田幸子  
評議員(敬称略)  
杉並支部 森千恵子  
中央支部 中嶋幸子  
佐賀支部 武岡秀子  
子備評議員  
中央支部 守屋孝子

元且に箱根伊東方面に旅行した。  
真白に輝く富士山、穏やかに広がる暖い海、みかんの実る山々を見て、平和で豊かな日本に感謝した。戦場で不幸な新年をむかえた地域も、世界各地にまだまだ多い。平和こそ私たちの最も望むものだ。平和で、美しい地球を守っていくことは、私たちの役目ではないか。人間だけでなくほかの動物も植物も穏やかに生命を楽しみ生きる美しい地球環境を、いつまでも保っていききたい。各自がなんらかの行動をすべきではないかと考えた。

『女性医師が日本の医療を変える』  
佐藤会長の巻頭言に同感した。女医の数は増し、人にやさしい医療サービス  
の提供がなされるであろう。年

編集後記

平成7年1月20日 印刷  
平成7年1月25日 発行

編集人 稲生 襄  
発行人 日本女医学会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医学会  
〒三三九八一〇五七一  
〒三三九八一〇五七一  
制作 東京都文京区水道1-5-16  
株式会社 金剛出版